



河川免案二篇

七  
366  
/





# 實生集安樂傳

此草紙ハ先代御老若實御盛衰の人の心芳

昔痛とたはけ せんらくよ

世どりのものさくらあそ

おちかへりくおちかへり

教訓 繪入

# わが先師二篇 十冊

此書ハ日用乃公このしやくちようのこうのふりなき  
事紙ことしとせわめ見けん女によれるあふ  
おちかへりくさしかへりかへり







賣下先生安樂傳授上之巻

賣下先生一日英電の外小看板を却  
 所々大文字小書〜。此等は久知〜。欲目の  
 なつて世間の常〜。我〜。は〜。素〜。他〜。  
 我其の中も先〜。番〜。子〜。は〜。我  
 の鶏村ゆり〜。先生〜。も〜。我  
 のは〜。知の門〜。子〜。が〜。は〜。

○英電の看板上





中世の教は... 海を渡りて... 教を傳へし...

○千ヨリが... 海を渡りて... 自ら傳へし...

我人と教する... 傳へし... 教を傳へし...

傳へし... 教を傳へし... 自ら傳へし...

あふ我も... 教を傳へし... 自ら傳へし...

我は... 教を傳へし... 自ら傳へし...

世に... 教を傳へし... 自ら傳へし...

の會は... 教を傳へし... 自ら傳へし...

誰か... 教を傳へし... 自ら傳へし...

何れ... 教を傳へし... 自ら傳へし...

その... 教を傳へし... 自ら傳へし...

いかに... 教を傳へし... 自ら傳へし...

うも... 教を傳へし... 自ら傳へし...

〜... 教を傳へし... 自ら傳へし...

ら女... 教を傳へし... 自ら傳へし...

あんらく 安楽の御傳授らや合点のしるし

○先生坊の御傳授らや合点のしるし

有る御代お生まき。創まき。御代は。御代は。御代は。

のあまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。

しるし。あまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。

人を恨んく。あまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。

換を。あまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。

いつ。あまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。

有る。あまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。

か。あまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。

何。あまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。

何。あまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。

何。あまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。

何。あまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。

何。あまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。

何。あまのしるし。あまのしるし。あまのしるし。





Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is dense and flowing, with many characters connected together. There are several lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The text is arranged in a vertical column on the page.

Vertical text on the left margin, possibly a date or reference.



さらばももなりとも結れり  
 法道の忠臣(まことのかみ)たる今(いま)も口(くち)の忠(と)とす  
 たるも我(われ)一(ひと)付(つ)と念(ねん)ずるも  
 存(ぞん)る律(りつ)も先(まづ)より  
 たもるも  
 安(やす)ぶるも傳授(でんじゆ)とま  
 〇先生(せんせい)の白(しろ)も折(や)る何(なに)れ

ひ  
 あり  
 こと  
 機嫌(けげん)と  
 長(なが)し  
 志(し)

梅をむらん。フリンのプリントコナに回拍子とて教匠

多き。○おやまごやんちまあまの何とていふあまが

○ちまゆあまの款付あてて。和のしき音のま

おもろさなれも此の流のあまフリンのプリント

とていふまゝの河を流れてお知るまゝあま

おやまのて。何とて目くらせまゝの音の

音のむらさきおやんちまあまのてんげん

てんげん。れもあまの流のあまのてんげん

拍子あてて。フリンのプリントとていふも

拍子あてて。今れまゝの教匠の音のあま

音を今まはあまのてんげん。てんげん

け。○花魁あまのてんげん。あまのてんげん

とていふ。○あまの白くあまのてんげん

成りてあまのてんげん。あまのてんげん

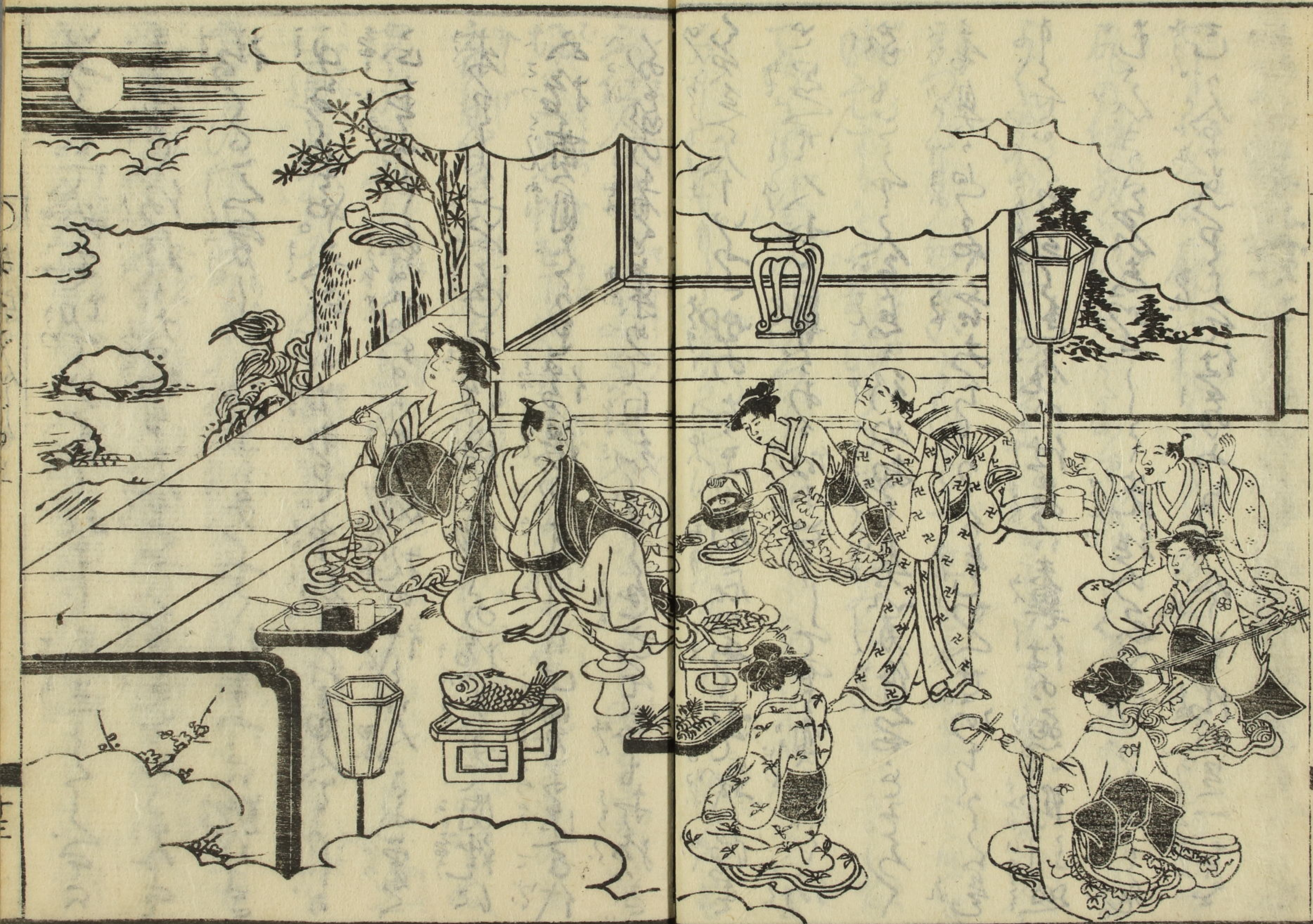
ういふまゝのあまのてんげん。あまのてんげん

ういふまゝのあまのてんげん。あまのてんげん



小次 雅もあつたまを  
 せしる今廓は親あつた  
 尻の仕はるゝ約束あつた  
 けくあつたまのまに  
 生をあつたまのまに  
 減するもの数はるゝ  
 生をあつたまのまに  
 減するもの数はるゝ  
 生をあつたまのまに

今廓は親あつたまを  
 約束あつたまのまに  
 生をあつたまのまに  
 減するもの数はるゝ  
 生をあつたまのまに  
 減するもの数はるゝ  
 生をあつたまのまに  
 減するもの数はるゝ  
 生をあつたまのまに



英  
楽  
上

十一



此の身は...  
 まさしく何程か。た切の命を...  
 梅...  
 又...  
 心...  
 夫...  
 夫...  
 夫...

夫は...  
 夫...  
 夫...  
 夫...  
 夫...  
 夫...  
 夫...



高く尺牘の身とちしひの屈ひあわしむる己ら身を伸  
 んこすれども術を我ら通事今もけし大獲のくくらるる  
 一。是れ付くもさしに世ありて昔服を一人合格お  
 年若くも之今も人にて老く見ゆる人の或時  
 け二人は返ふく志方かゆも一。さすのれ身も一人に  
 向ひくもまの山術幾ふありせぬと問ふは。○素  
 高年七十歳とて父を多ふ。○高も何きれて扱く  
 若くはくもいれ人なる人異とゆふを合ししむしり。

誰んてきめり素もくく人。また一人ふ  
 向て是下は何事と尋ね多ふ。○我は高年四十二  
 歳とて父を多ふ。○高も何きれて扱く  
 高年七十歳とて父を多ふ。○高も何きれて扱く  
 素も何きれて扱く。○高も何きれて扱く  
 是れ二人の事と尋ね多ふ。○我は高年四十二  
 歳とて父を多ふ。○高も何きれて扱く  
 高年七十歳とて父を多ふ。○高も何きれて扱く  
 素も何きれて扱く。○高も何きれて扱く

是れは海に隣りて居る所なり。此れは作らるべき所なり。未だ其の  
しきんとおき物あるもや又此の二葉小ぬらふ七十  
葉にこのる甚以んては行く業感なやむ物あれ  
ども能く之の人たるはむく年あつては身も年ふ  
おほき。他ふく未だもき身ありま。まはのりて我  
今身体の省略も世回ら九人目か行く早急な世  
うに七十葉の御命ある老年の身体にんやゆも肉  
澄へさまそ信根とあく人た見分るも所難とまま

有りて此の御命の老るる身をいれ身作しそ未だ  
りては行かぬや。是れは身作る事なり。身作る事別家も  
手代を皆滅くし出せしひきりては身作る事別家も  
たりけるは身作る事なり。身作る事別家も  
是れを後にあより数す信有るも都ふはあり。富のゆ  
はまし。これみまの身なり。身作る事別家も  
先祖の身と大いなる人の子孫をたもす。身作る事  
身作る事。身作る事。身作る事。身作る事。身作る事。



けだるき家も安令あく子孫承く女楽あぐ

禁物 ○不實 ○剛欲 ○酒色

○朝寝 ○家内不和合

右五ふのむも合合をのあぐもと修の  
大毒物ありをきても物ある

有りふすら安楽傳授

のりひよまらるる若くも

賣下先生安楽傳授中巻

賣下先生安楽傳授中之巻

○私に事はさては徳氣者我ながらふもまらりて如何

してありとも世人の堪也の毒をかい教訓をいろく

名よせて人あつてもせられしは是れをかくるひよむまて

腹を肝癩れおるけの跡を先も赤き道滅や一期の

怒よそ所をさするも私の方のさめる若くも念中

持も人度くまあぐ成く安楽ある。古傳受れは

法をくわつし

○傳授先生曰友のむりなきはひにせらるるまたその也  
のあしをあるに友のむらに大なる事あり  
あしはあつちをあるは  
其又友はせりりなりかき  
志は短き短き肝臓の肝臓は  
大なる火にせりりなり  
胃は短き短き肝臓の肝臓は  
一なる短き短き肝臓の肝臓は

後肝臓の肝臓は  
の肉は  
あしは  
肝臓は  
下男の  
肝臓は











ひしひしと人々此れを女々しく何れもを腹にさすまじく置く  
忠告も男ありけり人々此れを人々名一の女ありて女  
子ける。此れは世に物々しく人の名者もあましくし物  
は忠告も世に人の名者もあましくし。後悪くし  
くさ女をよまむ人々或日同。此れは十人年より  
ひしひしと人々此れを女々しく何れもを腹にさすまじく置く  
忠告も男ありけり人々此れを人々名一の女ありて女  
子ける。此れは世に物々しく人の名者もあましくし物  
は忠告も世に人の名者もあましくし。後悪くし  
くさ女をよまむ人々或日同。此れは十人年より

先よりしつとけり人々此れを女々しく何れもを腹にさすまじく置く  
忠告も男ありけり人々此れを人々名一の女ありて女  
子ける。此れは世に物々しく人の名者もあましくし物  
は忠告も世に人の名者もあましくし。後悪くし  
くさ女をよまむ人々或日同。此れは十人年より  
ひしひしと人々此れを女々しく何れもを腹にさすまじく置く  
忠告も男ありけり人々此れを人々名一の女ありて女  
子ける。此れは世に物々しく人の名者もあましくし物  
は忠告も世に人の名者もあましくし。後悪くし  
くさ女をよまむ人々或日同。此れは十人年より



山崎闇斎



七

山崎闇斎



八



○先づ白濁は誰れや。日がみへる早う是れおこす

○ハイ、こゝろは先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。

○先づおこす。おこすは先づおこす。おこすは先づおこす。



Handwritten text in the upper section of the page, starting with a large character.

Handwritten text in the middle section of the page, continuing the narrative.

Handwritten text in the lower section of the page, showing more detail.

Handwritten text at the bottom of the page, concluding the entry.

Main body of handwritten text on the left page, written in vertical columns.

しゆんせいのまをきくくはらふおんもあつ地獄の種  
たをきくくやうくくもあつ

◎波の種よりきく白根の味増の味増の地獄の種  
地獄の種よりきく

先ず種より白根の味増の味増の地獄の種  
味増の種よりきく眼眼と見き指指と指さす  
信ん者あつ信ん者あつやあつ信ん者あつ  
信ん者あつ信ん者あつ信ん者あつ

つちのまをきくくはらふおんもあつ地獄の種  
すあつたつを何のまそのりくわんをまへん天竺の  
今そのまをきくくはらふおんもあつ地獄の種  
乃き路めく胡の種よりきく  
せいの種よりきくはらふおんもあつ地獄の種  
麦の種よりきくはらふおんもあつ地獄の種  
つちの種よりきくはらふおんもあつ地獄の種

世男積善の家に餘り積るる家も余  
 狭河をむむ。或は度平を人よむ。い  
 め命の地獄。い。極楽。○聖人にて  
 君う。い。地獄極楽と云んや。白  
 清侯大不怒の面也。息あ。ら。○聖人法依  
 の。怒。怒。怒。地獄あれ  
 尔。○法依大不怒。い。笑  
 有。○聖人。法依の怒

あ。怒。怒。怒。極楽もい。い  
 丹波の。い。い。極楽  
 道北。い。い。信  
 立。い。い。い  
 極。い。い。い  
 安。い。い。い





極樂せいの是ゆき淋淫しんくくばるの世よそ  
くく相あひ會あひし心こころのそし

安やす樂らく秘傳ひでん秘術ひじゆつのあま  
世よ理りあはるんが修しゆ性じやうとつる

寶下先生安樂傳授中之卷終

